

映画『プラロット メーリー』(1981)の梗概

紹介：平松 秀樹

VCD前半

子供の12姉妹が森で捨てられる場面からスタート。

巨大夜叉登場、象も逃げる。

巨大夜叉、12姉妹の父母を殺す。

女夜叉、人間のセクシー姿で修行中。

女夜叉、12姉妹を養女にし、成長薬を与え、12姉妹はたちまち大人に。

女夜叉、以前より不老不死の薬を造るために同じ胎から生まれた12姉妹の眼球を求めていた。

臣下の冴えない男夜叉が幽閉された12姉妹にヒントを与え、12姉妹は逃亡する。女夜叉が部下を連れて追跡。

隠者が12姉妹を隠し、末妹に治療薬を授ける(女夜叉も隠者には敬意を示す。隠者に12姉妹を見なかったと告げられたのでおとなしく引き返す)。

末妹、落馬した王を助け、治療薬で治し、妃(側室)に迎えられる。

夜叉女、復讐のため臣下を派遣し、国王に1日10万人の犠牲者を欲求。

末妹が夜叉対策に(魔術)師を呼んでくる(実は女夜叉と同一人物だが気が付かない)。

魔術師の前で計画通り臣下の夜叉退散。魔術師(女夜叉)が第一王妃に。

12姉妹、呪文のかかったスイカを食べて全員懐妊する。魔術師、正体を明かし、12姉妹を洞窟に閉じ込める。



映画『プラロット メーリー』(1981)のVCDジャケット

VCD後半

女夜叉から洞窟の見張り役を命じられた冴えない男夜叉が12姉妹に好意的で、「死は易しく、生は難し」といって12姉妹を陰に援助。

男夜叉がテーワダー(神人、天人)によってつけられた乳房で末妹の息子を育てる。

息子はたちまち成長し、テーワダーが自ら変化した鶏で闘鶏。テーワダーはのち馬に変化(上半身裸のテーワダーはビジュアル的にかなり異色)。

息子、女夜叉の策略でメーリーの国へ。ロマンスの筈が、この映画ではそれほどロマンティックでない。

息子は何もせず、テーワダーが秘薬・眼球等を盗んで来て息子に渡す。

息子、メーリーを捨てて夜叉国を出る。後を追うメーリーが巨大化。

息子、メーリーに秘薬を投げつけ、あとを追わせない。

メーリー死す。

息子帰還し、女夜叉を退治。女夜叉の巨大化(特撮)。

冴えない男夜叉、人間は皆それぞれの業から逃れられないと「カム」(業)の訓示を垂れたのち、みんな善行しなさいよと言いながら、「サワディー・カー、わあ違っちゃった、サワディー・クラップ」とかわいらしく合掌して終劇。